

## contents

- ・新年のご挨拶
- ・災害時医療連携訓練
- ・がんと共にすこやかに生きる
- ・診療科紹介  
眼科 / 耳鼻咽喉科
- ・高齢者フォーラム
- ・院内コンサート日程
- ・三鷹市老人クラブ
- ・リスクマネジメント講演会

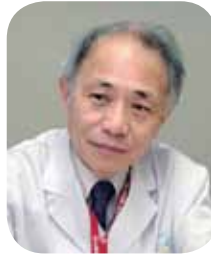


【杏林大学医学部付属病院】  
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2  
Tel. 0422-47-5511 (代表)  
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital>

## ■ 新年のご挨拶

新年あけまして  
おめでとうございます

病院長 東原 英二



年頭によせて

副病院長 呉屋 朝幸



皆様には、地域医療にご尽力をされておられることとお喜び申し上げます。昨年は強毒性鳥インフルエンザ流行が危惧される中での年明けでしたが、予測もしなかった新型インフルエンザが世界中に大流行し、その対応にご苦労されたことと思います。

昨年10月24日、三鷹市周辺の地域災害を想定した医療連携訓練を三鷹市と共に関係する諸機関・団体と実施した事は大きな収穫でした。今後更に災害時医療連携訓練を充実させて行くことが必要だと考えています。

医療環境の先行きが不透明な中ですが、地域住民の高齢化による医療需要増大を、皆様と共に地域の方で共に支える事を目標に杏林大学病院は努力して参ります。本年も宜しくお願い申し上げます。

新年にあたりご挨拶申し上げます。

昨年は「交代」がテーマでしたが、相変わらず医療環境は厳しいものでした。今年も医療政策の目標が定まらないままです。

本院はこの4年間、一貫して「地域に根ざした大学病院」という標語のもとに、地域の患者さんに高質の医療を提供することにより地域社会の安心と安全に貢献することを目指してきました。そのために、各医療機関や診療所の先生方との医療連携を円滑に進めることに努めています。この4年間を振り返ると、各種の地域連携パスができあがり運用されるようになったことをはじめとし、各医療機関・医師会との情報の迅速な共有化が進み信頼感は深化したものと確信しています。これらのことはひとえに、皆様を支えていただいた結果だと思えます。これからも、ご指摘いただいた課題を改善し、様々なニーズに答えられるように院内の体制整備を進め、開かれた大学病院として地域医療に貢献していく所存です。

## ■ 「がんと共にすこやかに生きる」プログラムのご案内

看護部では、がんに一度でも罹患された方々が、病気のストレスと上手に付き合っていくようになることを目指して、当院がんセンターとの共催で「がんと共にすこやかに生きる」という有料プログラムを年3クール開催しています。

プログラムは1クールにつき5週連続で、毎回、講義と患者さんと看護師・薬剤師・栄養士の職員との自由な話し合いからなっております。講義内容は、がんの理解、食事や排泄、睡眠など日常生活、気持ちの変化とリラックス法、医療制度や社会支援など、がんと付き合っていくために必要な内容をコンパクトに取り入れています。自由な話し合いは、普段言えないこと、聞けないことを語ることで、ストレスの多い患者さんの精神衛生の向上を目指した精神療法的セッションです。1回2時間5週連続のプログラムに参加できる体力のある患者さんであれば、病気の部位や病期、医療機関にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。プログラムの詳細や開催時期、申込方法については、当院ホームページのがんセンターからアクセスしてください。



プログラム最終日のミニコンサート

## ■ 災害時医療連携訓練

当院は昨年10月、三鷹市と合同で大地震を想定した医療連携訓練を実施しました。本訓練は、陸上自衛隊第1師団、三鷹警察署、三鷹消防署、三鷹市消防団、三鷹市医師会、東京都立三鷹高等学校、三鷹市自主防災組織連絡会のご協力のもと500名が参加して行われました。

医療機関の災害への関わりは、自発的で利他的なボランティアを基調として、医師は自主的に参加し、自分たちがやりたい活動を展開することで感謝されていると理解していましたが、実際の災害現場では、各機関の方たちが限られた時間、限られた資源を有効に活用するために、役割分担や地位を決めて、整然としたシステムを構築してその任務にあたり、そこに大きな違いがありました。

本来病院は、きわめて公共的な存在です。病院は単に、医師-患者関係によって構成される組織としてではなく、これを取り巻く様々なステークホルダーとの関係の中に位置づけられなければなりません。災害対応においても、病院はステークホルダーの利益に適合し、かつ病院として求められる行動をとる必要があります。

今回の訓練では、これらを踏まえ、各機関が協力して連携の取れた訓練を実施することができました。当院は地域の基幹病院として、また災害拠点病院として、地域の皆様に最大限の貢献ができるよう、引き続き関係各機関と連携し訓練に努めてまいります。



(杏林大学病院災害対策委員長 山口芳裕)

## 診療科紹介

### ◆眼科（アイセンター）

当科もアイセンターを設立してはや11年が経過し、設備や体制も大きく変化いたしました。具体的には眼科専用手術室（外来手術室内）の整備、low vision 外来、アイバンク、糖尿病網膜症専門外来（内科糖尿病専門医との同時診察）、教育システムの充実などがあげられ、外来患者数、手術件数は年々増加の一途を辿っております。当科の看板である網膜硝子体分野は、平形明人教授を中心に精力的に取り組んでおり、年間1000件前後の硝子体手術を施行しております。また永本敏之教授を中心とした白内障手術部門、新たに教授に就任した岡田アナベルあやめ教授を中心とした黄斑専門外来、眼炎症専門外来は年々充実しております。

それに伴う医局員の確保が最大の問題ではありますが、今後も質の高い医療を提供できるよう医局員一同邁進する所存であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

### ◆耳鼻咽喉科

当科では、耳鼻咽喉科全般の疾患に対応できるよう心がけていますが、特に力を入れているのは頭頸部腫瘍、中耳手術、耳管開放症、難聴・めまい、補聴器、鼻・副鼻腔疾患、喉頭疾患などです。さらに08年4月より、当科の唐帆健浩准教授と佐藤医師を中心として摂食・嚥下外来を開設し、言語聴覚士、摂食嚥下認定看護師、歯科補綴医も参加して、脳血管障害、神経筋疾患、頭頸部癌治療後などの患者さんの嚥下障害の診療を行っています。摂食嚥下障害にはチーム医療が必要であるため、09年7月からリハビリテーション科、高齢診療科、神経内科、消化器外科など関連する診療科の医師や多職種も参画した「摂食嚥下センター」を編成し、外来および入院患者さんの摂食嚥下障害に対する治療方針を協議しています。将来は、嚥下障害のある患者さんの退院後にも円滑なケアができるよう、「摂食嚥下パス」の運用など、多摩地区における地域医療連携システムの構築を計画しています。

### ■高齢者フォーラムを開催

昨年12月5日に、大学院講堂において「高齢者介護・看護・医療フォーラム」が開催されました。

これは高齢者の医療、看護、介護の実地業務に携わる方から、問題提起や取り組みについて話を聞き、参考にしてもらおうと開いたものです。

フォーラムは呉屋朝幸地域医療連携室長の開会挨拶に始まり、高齢医学の鳥羽研二教授のコーディネートのもと「認知症の現状を考える」と「病院・施設での転倒リスクマネジメント」をテーマに、シンポジウム形式で行われました。

高齢者医療は医師、看護師、介護士ほか多職種が関わる医療分野であり、お互いの業務をよく知ることによって有効な連携が成り立つと考えられます。「他の職種の視点から自分の業務のことを考える良い機会でしょう」という、鳥羽教授の閉会の辞は本フォーラムの意義を言い表した言葉でした。

ご講演いただいた様々な職種の方々やフロアーの方々の活発な質疑により、大変充実したフォーラムとなりました。ご参加いただいた方々にこの場を通じてお礼申し上げます。

### ■院内コンサート開催日程

桐朋学園のご好意で、1999年の7月から附属病院外来棟で行われている音楽学部学生達による院内コンサートは、入院患者さんをはじめ地域の方々からも大変ご好評をいただいております。

コンサートは年に4回春、夏、秋、冬にそれぞれ開かれており、同学園の学生たちが、クラシックの名曲や童謡など親しみやすい曲を演奏し、患者さんたちを癒やすとともに音楽の持つ素晴らしさを教えてくれています。



#### 【本年のコンサートスケジュール】

- 第44回・・・2010年 4月10日（土）
- 第45回・・・2010年 7月10日（土）
- 第46回・・・2010年10月 9日（土）
- 第47回・・・2010年12月18日（土）

### ■三鷹市老人クラブで講演

当院では、「地域に根ざした医療機関でありたい」という東原英二病院長の提案で、三鷹市老人クラブと共催し、毎年、健康に関する講習会を行っています。

今年度で4回目となる講習会は、11月13日に三鷹市社会福祉会館で「食事」をテーマに開かれ、地域のお年寄りの皆さん約70名の方が聴講に訪れました。



講演では、消化器内科の高橋信一教授が、健康に生きよう・食と生活習慣、「食事とがん予防について」をテーマに講演し、塩分摂取量と発がん性には関連性があるというデータを紹介したほか、栄養部の塚田芳江さんが食事のバランスについて、リハビリテーションの中山剛志さんが嚥下障害を防ぐ体操を実演しました。



最後に、看護師が中心となり、実際に参加者の血圧を計りながら、家庭で血圧測定をする際の注意点を説明し、参加者からの質問に答えていました。

### ■第2回リスクマネジメント講演会

日時：平成22年3月1日  
18:00～19:00

場所：大学院講堂

タイトル：医療安全管理のポイント（仮）

講師：相馬 孝博

（東京医科大学医療安全管理学主任教授、  
医療安全管理室長、手術部長）

医療安全管理学の専門家である相馬孝博先生をお呼びして、リスクマネジメント講演会を開催いたします。医療安全の専門的な研究・指導に当たっていらした相馬先生の実践的なお話をうかがいます。

※お申し込みは、**地域医療連携室**までご連絡ください。